

Biological and clinicopathological implications of beta-3-N-acetylglucosaminyltransferase 8 in triple-negative breast cancer

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2020-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡崎, みさと メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002463

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2217 号

Glycosyltransferases involved in malignant behaviors of triple negative breast cancer

トリプルネガティブ乳癌の悪性挙動に関与する糖転移酵素

岡崎 みさと (おかざき みさと)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

乳がんはホルモン受容体や HER2 蛋白質の発現レベルに応じたサブタイプ分類に応じて治療が行われるが、トリプルネガティブ乳癌 (TNBC) は除外的な診断であり、その中には治療抵抗性が高い患者と低い患者が含まれ、原因となる機構や分子的な背景の全貌はいまだに不明である。

本研究では、がん細胞の悪性挙動に関係することが報告されている糖鎖に注目し、その生合成を担う糖転移酵素の発現レベルと腫瘍生物学的な関係について解析を行った。予後などの臨床情報が紐づいている TCGA 公開データベースを活用し、遺伝子発現レベルと TNBC の予後と関連する糖転移酵素遺伝子 (糖鎖の生合成に関わる酵素) を探索した結果、候補遺伝子として B3GNT8 を見出した。B3GNT8 の発現レベルと無再発生存期間とは逆相関の関係を示し、この傾向は独立したコホートである Kaplan のデータベースを用いても再現されている。これらの生物学的な意義づけについては今後の課題でもあるが、2 つの独立したホートで再現性良く予後との関連が示されていることから、今後のバイオマーカー研究に期待できる結果であると考えられる。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。